

## 真の技術者魂が社会を救う

保健師・教員 八田冷子

先生、貴重で楽しい講義ありがとうございました。

久しぶりに、鹿児島から上京して、先生の講義を直接聞けたのは、とてもラッキーでした。これからは、市販薬は大鵬薬品のものにしてほしいと思いました。

ダニロンやマイルーラの研究開発のプロセス、薬剤が世に出るまでの臨床試験の中で起こる「光と影」、その中で先生のような技術者が「母には飲ませたくない」という一心で、命の危険も感じながら会社組織と闘い、勝ち取った信頼と絆は何にも代え難いもので、先生の話の中には、一緒に闘った同僚や、それを支えてくれた奥様への「愛」を強く感じました。

保健所で性教育をしていた時、受講者にマイルーラを紹介していたことを思い出し、ぞっとしてしまいました。新しく出たものを疑いもせず紹介していたのでした。

公開講義前のゼミで話が出た、新たな開発と厳しい審査は、人体に影響する医療分野では、とりわけ、表裏一体で進まなくてはならないと改めて感じました。

介護分野でも、弄便などの行為がある方の家族に「鍵付きのつなぎ」を家庭看護教室で勧めたり、点滴を抜く行為にミトンを紹介したりなど、今では身体拘束にあたることを平気で紹介していたこともありました。

知らないということの恐ろしさを今更ながら感じます。

医薬品の開発は、海外も含め、全世界で今後も熾烈な競争が行われると思います。私たちはどこまでそれを求めていくのだろうかとも考えました。

今年度から難病の指定数が大幅に増加し、そういう疾病で苦しむ患者さんのためには、早く治療法が確立されればと思う反面、病気をなくすことが不可能であれば、病気と共存して生きていく方法を考えていかなければと思います。

認知症も治る時代が来ると言われていますが、認知症が「長寿の証」とであるとすれば、上手に付き合う生き方を私たち自身が身に付け、社会全体で受け入れる仕組みが必要だと感じます。

今回、非常に重たいテーマでありながら、講義のあとになぜか「爽やかな」「やさしい」気持ちになったことが不思議でした。

今回、論文指導の中でゆき先生から教えていただいた講演の極意、「ホロッと涙ぐむ瞬間」「クスッと笑ってしまう場面」「なるほどと納得する論理」が、先生の講義の中に詰まっていたからだと思います。

そして、「真の技術者魂が社会を救う」ことを身を持って証明されたのだと思いました。

先生にはほど遠いのですが、これから私も同じ技術職として「真の技術者魂」を磨いていけたらと思います。先生がようやく素敵な白衣姿で好きな研究に取り組み、今後も活躍されますようお祈りいたします。

先生はお酒がお好きなようですが、鹿児島にも美味しい焼酎がありますのでたまには焼酎も飲んでみてください。ありがとうございました。